

インターバンクの声（2017年4月28日）

昨日の日銀金融政策決定会合は、半ば予想通りだったものの金融政策の現状維持を決定、マイナス金利幅を0.1%、長期金利目標を0%程度にそれぞれ維持したほか、国債買入ペースも年間80兆円規模に据え置いた。この日銀会合結果の発表後もドル円の値動きに変化なく、朝から続いていた111円台前半から中盤での取引が続き、ロンドン市場でも同水準での相場展開が続いた。

その後、米新規失業保険申請件数の増加や3月の米耐久財受注が市場予想を大きく下回ったにも関わらずドル売りになることもなく、このまま波乱なしにニューヨーク市場を終えるかと思われた。

ところが欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が記者会見でユーロ圏経済の下振れリスク後退を指摘するとともに、理事会でフォワードガイダンスの修正は議論していないとも発言したことでユーロが短時間で乱高下してしまった。

最初のユーロ買いにつられて111円60銭まで上昇したドル円だが、ユーロの反落や米長期金利の低下などもあって再度111円台前半までドルが売り戻された。丸一日残しているが、どうやら111円前後でゴールデンウィークを迎えることになりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。